

東京近郊の住宅街の一角。近くのタワーマンションから見下ろされるように、ひっそりとたたずむ2階建て木造アパート。この1室で独り暮らしの80代女性が8月に亡くなった。がんだったと

きずな
高齢社会のいま

という女性は誰にもみとられず、死後1日で知人に発見された。記者(32)は、遺族に代わって故人の部屋を片付ける遺品整理業「キーパース」(愛知県の遺品整理に同行取材した。(共同通信・小川美沙)

誰に会いたかった?

孤独死の現場に立ち会う

80代女性の遺品整理

東京近郊

周りを建物で囲まれ、昼間でも暗い、1階の6畳と4畳半の部屋。トイレ付きで風呂はなく、家賃は3万5千円。窓を開けると、どこからかテレビの音とセミの大合唱が聞こえてくる。

紺、黄、ピンク…。衣に会いたかったかな」と胸が詰まる。ぐっとこらえ、手を動かした。作業は全部で3時間半ほどで終わった。

遺品整理の約6割が中年の孤独死。お年寄りには3割ほどだ。「お年寄りには福祉の手が入るが、(比較的)若い人はプライドもあり、周りに助けを求められないのかも」

流しにはクモの巣が張り、水切りかごにはどんぶり茶わんが一つだけ。食事はできていたのだろうか。小さな

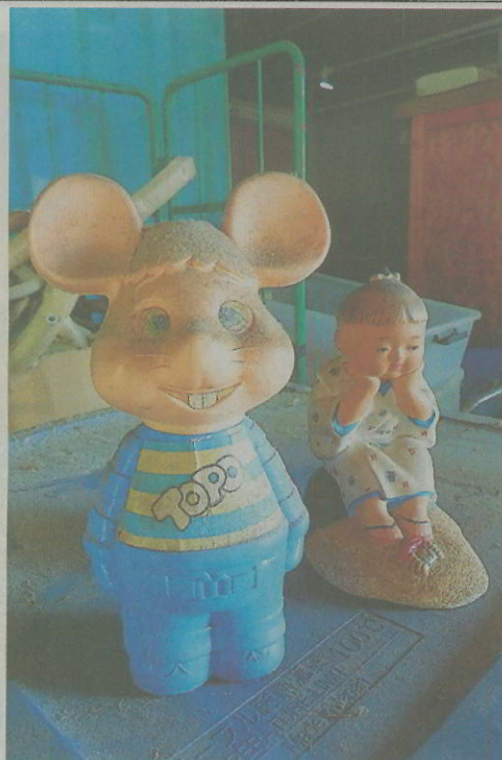
「遺品はごみでは無い。人の生きざまそのもの」と代表取締役吉田太一さん(46)。開業して8年、約1万件を

扱った。死後1カ月、誰にも発見されず液体が染み込み人の形ができた畳やごみで埋め尽くされた台所もあった。意外にも思えるが、

女性の親族は立ち会わなかった。かさにたぶぷりホコリが積もった電灯をつけると、女性に倒れていたという場所に、既に枯れ始めたユリの花束が供えてあった。

「運び出した段ボールは20箱ほど。次は、土壁や天井に付いたホコリを落とし、掃除機をかける。畳に血痕のような小さな染みを見つけて、「もしかして、女性に痛みをこらえていたのかな」「最期に誰

100歳以上所在不明者32人の住民票抹消へ
大阪市は19日、10歳以上で所在が分からない人が63人いるが、うち、12人は1996年死亡届が出されており、1人は2002年に失踪(しっご)宣告届が出された後、戸籍が抹消されていた



「じゃ、まず合掌しましょうか」。作業員と一緒に手を合わせ、仕事を始めた。遺品を段ボール箱に詰める。エアコンのない部屋はむせ返るような暑さ。始めて5分で作業員は汗びっしょりだ。

遺族が受け取らなかった人形など、「キーパース」が供養してから処分する。大阪府豊中市の同社・大阪支店(記事中の人物の遺品ではありません)

「異常なし」さらに減少

昨年:人間ドック 9.5%、過去最低

日本人間ドック学会(奈良昌治理事長)は19日、2009年に人間ドックを受診した全人の約300万人の成績を集計し「異常なし」とされた人の割合が、初めて10%を割り込んだ前年をさらに0.1%下回る9.5%だったと発表した。集

計を始めた1984年の29.8%から年々減少し、過去最低となった。地域別で異常なしが最も多かったのは中国の13.7%。最も少なかったのは九州・沖縄の5.4%だった。異常があつた検査項目の最多は高コレステロールの26.5%で、肥満の26.3%、肝機能異

JR青森支店は19日、夏30万1千人と前年比2%増の臨時列車利用も前年比 店の担当者は「ほぼ予定通り」

来場10万人突破